

第3回ダムWG会議（2004.7.25開催）結果報告		2004.7.28 庶務発信
開催日時：	2004年7月25日（日）13：30～18：00	
場 所：	梅田センタービル 18階会議室H	
参加者数：	WGメンバー委員 17名、 WGメンバー外委員 5名、 河川管理者 35名 一般傍聴者（マスコミ含む）41名	
<p>1 審議の概要</p> <p>冒頭、今本リーダーより、第1回、第2回のダムWG会議は開催日程が急であったことや会場確保の関係から公開ではなかったこと、また、今後は公開を原則とするが、会場の関係で人数制限をせざるを得ない場合があることにつき了承願いたい旨の発言があった。</p> <p>5ダムの目的について</p> <p>資料3-1をもとに、河川管理者より説明。主要な意見等は以下のとおり（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 余野川ダムを満水にしたときに、下流の水位がどの程度下がるのか等の情報を示して欲しい。次の機会に示したい。</li> <li>・ 大戸川ダムで、基礎案では日吉ダムへの利水容量の振り替えが有効と記述されているが、データが示されていないのでわからない。 浸水区域や浸水戸数などでは有効性が認められなかった。基礎案の変更が必要。</li> <li>・ 量的な情報（数字）を出してもらわないと、議論にならない。</li> </ul> <p>利水に関する調査検討の報告</p> <p>資料1-1～3をもとに、河川管理者より説明。主要な意見等は以下のとおり（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料1-2の5ページ「水供給の実力低下」はどのように試算しているのか。 近年は渇水が頻発しており、1/10の渇水に対して公称能力通りに供給できていない。資料1-3の13ページ参照（昭和59年で75%程度の実力）。</li> <li>・ 平成3年頃までは供給量が取水量を上回っているのはどういうことか。 取水制限をかなりの頻度でやってきている。</li> <li>・ 今回はセットで報告されており、わかり易かった。利水や安全度の面で、1/10は確保すべきであり、「実力の低下」についてはもう一度検討する必要がある。また、府県はダムの撤退を表明しているが、国土交通省はどう考えているのか。利水については、琵琶湖の問題が絡んでいる。-150～200まで下げないと利水安全性を確保できないとはっきり言うべき。節水対策は水道事業者の経営を圧迫。河川管理者は、節水が水道事業者の経営にインセンティブを与えるようにすべき。府県のダム撤退は最終的な決定ではない。協議して欲しいということ。包括的な検討が必要と言っている。利水に関しては、-150まで下げても十分な容量を確保できず、深刻な問題。水道事業者にインセンティブを与えるような方策を今は持ち合わせていない。環境を守るということで節水を呼びかけている。</li> <li>・ どこまで「受忍」できるか。治水の面でも、利水の面でも、1/10を1/5にするようなことは、今の日本の社会では難しい。今のうちに手を打つ必要がある。 1/10というのは、先進国の中では良い数字ではないが、とりあえず目指しているところ。</li> <li>・ 近畿地方整備局の節水に向けた取り組みは英断と評価。はしごをはずすような消極的意見は問題。</li> <li>・ 大阪府からの申し出に対して、「包括的に検討」というのは、ごまかしのようにも聞こえる。</li> <li>・ 琵琶湖の放流量を有効に活用するためのバランスの良い操作管理が必要。</li> </ul>		

琵琶湖の水位と維持流量は取り合いの関係。維持流量は削減してきた経緯がある。

#### 質問等に対する補足説明

川上ダム計画に関する調査検討（中間報告）---- 第1回ダムWGにおける質問に対する回答資料3-4をもとに、河川管理者（木津川上流河川事務所）より説明。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・ 堤防強化をして堤防は壊れないというのが今回の計画の大前提。破堤は前提を崩すことになる。
- ・ スーパー堤防の議論には、実現までの時間と金のデータが必要。30年間で見事にできるのであればダムは不要だが、僅かしかできないのではないか。それが示されるまでは、議論できない。  
どこを補強すべきか検討中。以前、つかみの数字は出しているのので、次回、提示したい。
- ・ 堤防は治水の根幹。新しい工法に対してあまりに臆病であった。この委員会は技術的なことについて検討できる場ではないが、ダムか堤防かという選択に対してはきちんと検討したい。
- ・ 越流すると破堤することになるのか、河川管理者の考えを聞きたい。  
時間の問題で、間違いなく破堤すると考えられる。
- ・ 長期的には、危険性の高い地域からは、移動することも必要ではないか。

#### 余野川ダム計画に関する調査検討（中間報告）---- 補足説明

資料3-5をもとに、河川管理者（猪名川総合開発工事事務所）より説明。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・ 嵩上げで、どのくらいの費用がかかるのか。  
2mで160億円、10mで1080億円等（道路の付け替え等含む一式）。
- ・ 最も効果があるのは銀橋上流の開削、その次がダムの嵩上げだと思う。開削を3段階程度に分けて、さらに余野川ダムをつくる、つくらない、さらにダムの嵩上げのマトリックスをつくって整理して欲しい。個人的には余野川ダムの効果は小さいと思う。
- ・ 下流の浸水被害も考慮が必要。
- ・ 銀橋の狭さく部は景観（渓谷美）にも配慮が必要。景観に係わる資料も欲しい。
- ・ 一庫ダムの変更の一番大きな理由は何であったのか。下流の河川対策は手を付けず、上流のダムで治水対策をしようという方針に切り替えたのか。  
もともと考えていた操作では下流の対策がなく効果が不十分。中小の降雨でも効果があるようにということで考えている。

## 2 一般傍聴者からの意見

主要な意見は以下のとおり（例示）。

- ・ 治水に関して代替案があればダムは不要だ。利水需要の抑制は生活スタイルを変えていくようなものにしてほしい。需要を抑制する視点で、府県などにも上手に圧力をかけることも必要。
- ・ ポンプなども含めた耐震性の確認が必要。
- ・ 福井の集中豪雨の犠牲者に対し、流域委員会で黙とうしたりカンパを募ることはできないか。
- ・ 福岡市の1人当たり水利用は292リットル。大阪市は519リットル。この格差を深く認識すべき。

## 3 その他

- ・ 参考資料2をもとに、河川管理者から福井豪雨災害についての説明がなされた。

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。